

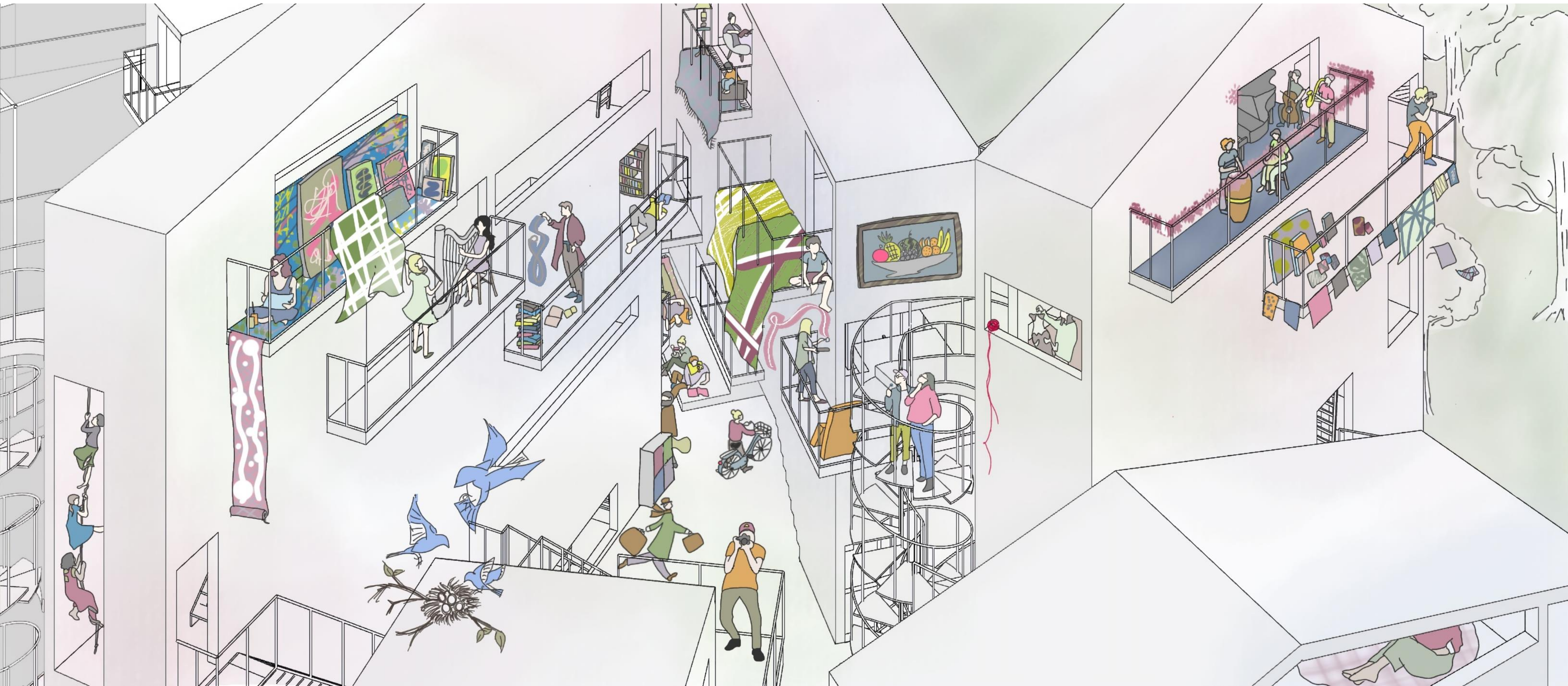
にじむ イロ

人の住居の拠点となる住戸において、繰り広げられる生活形態は人の数だけある個性が出る。まさに十人十色。
その個性を イロ とする。

イロ は住戸から外へとにじみ、広がっていく。そして、にじんだ イロ 同士は混ざり合っていく。

この集合住宅に住まうのは、何かを媒体として自分の イロ を発信する表現者たち。
細い住戸は人々の生活を切り取り イロ がにじみ出すキャンバスだ。

にじんだ イロ と イロ が混ざり合った空間は新たな イロ へとなり、この地に芸術館を出現させる。



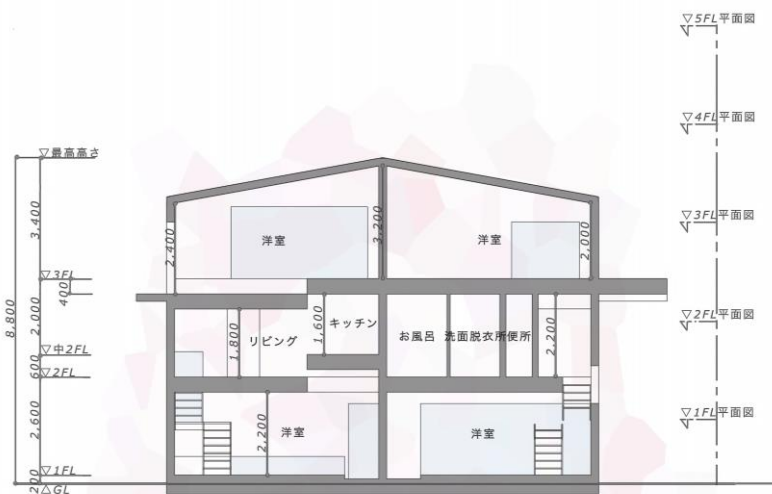
07 各棟の詳細



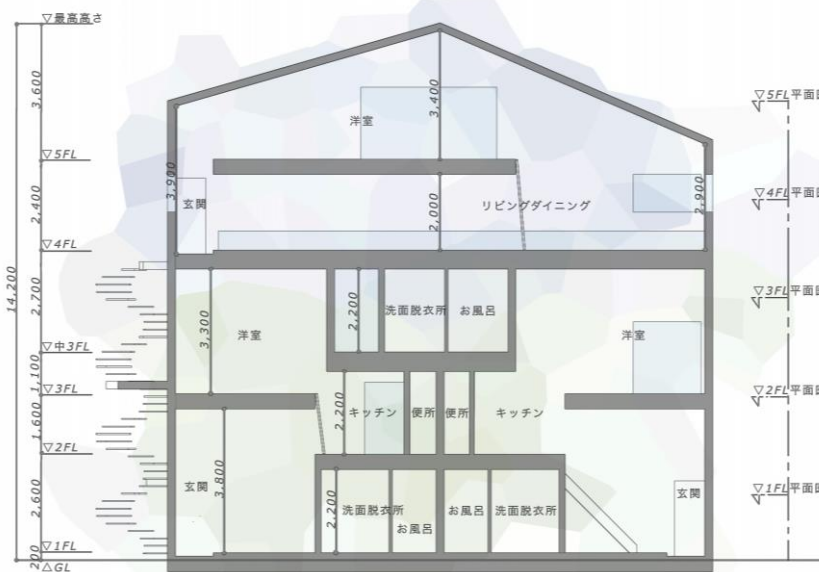
A棟
・住戸A 1戸
・住戸B 2戸



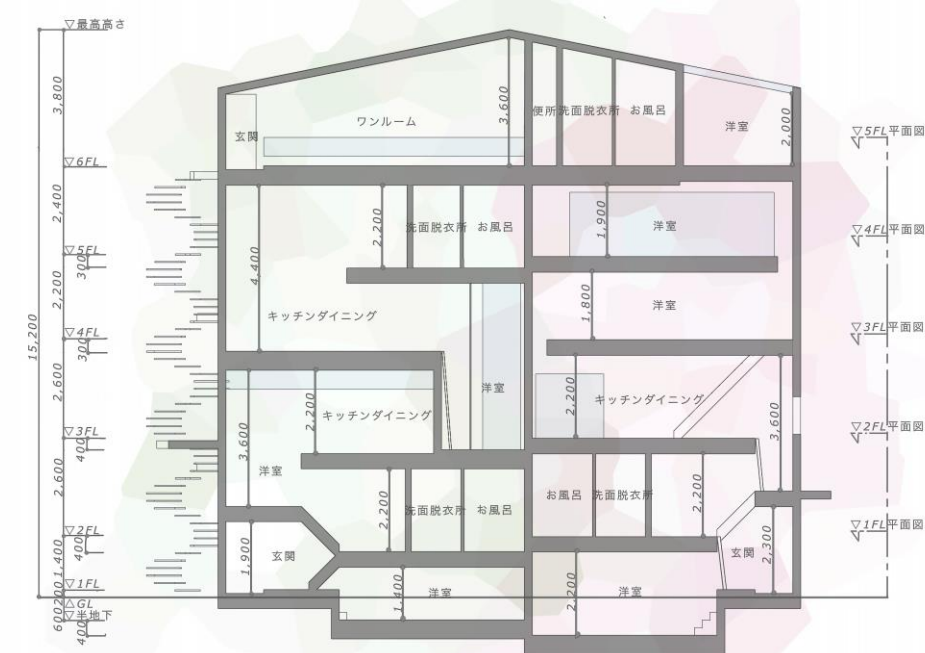
B棟
・住戸B 2戸



C棟
・住戸A 2戸



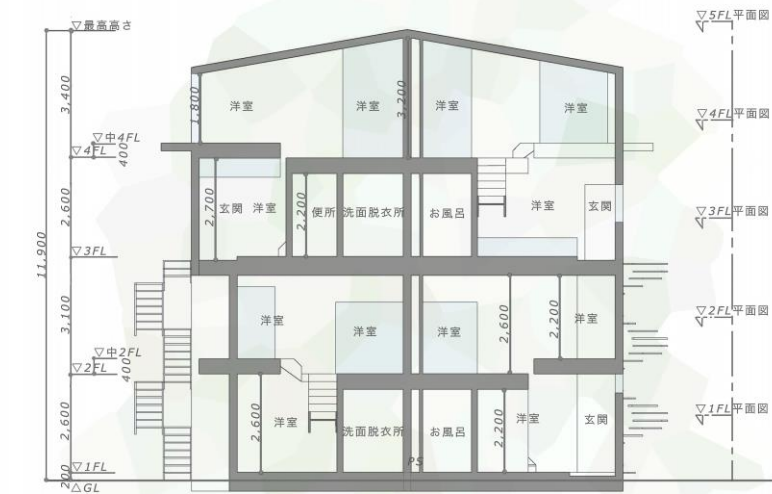
D棟
・住戸B 1戸
・住戸C 2戸



E棟
・住戸A 1戸
・住戸C 3戸



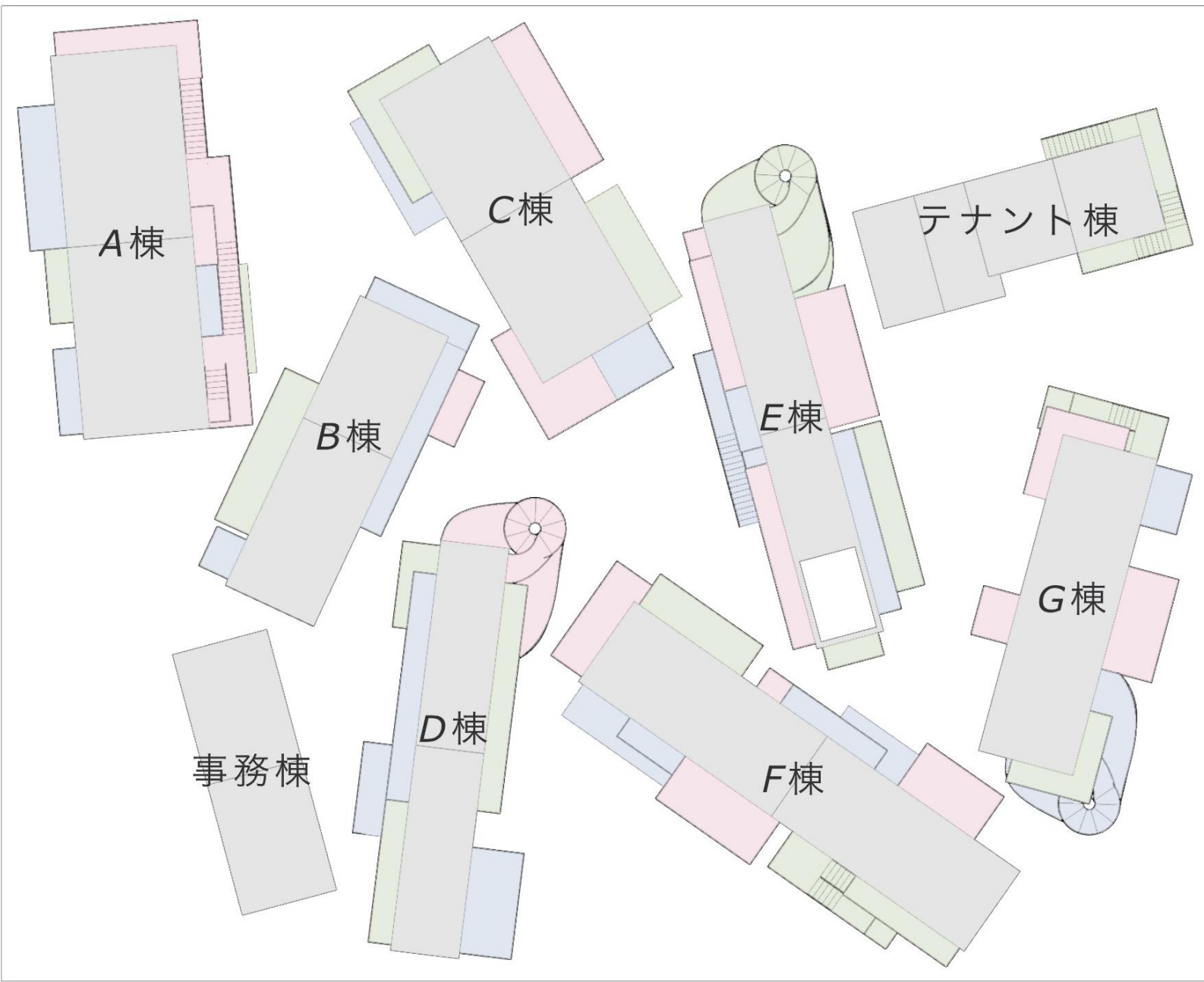
F棟
・住戸A 1戸
・住戸B 1戸
・住戸C 1戸



G棟
・住戸C 4戸

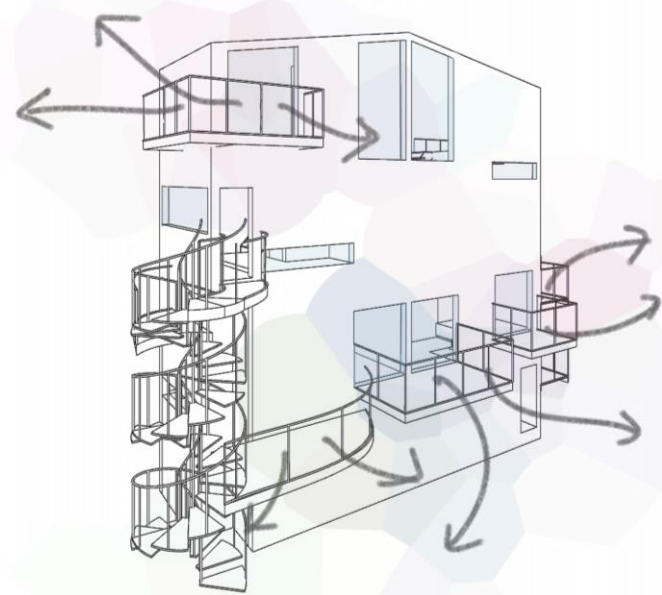
事務棟
・管理人室
・ごみ保管庫
・設備室

テナント棟
・テナント 3つ
・共有スペース (共有キッチン)



S=1:200 屋根伏せ図
S=1:200 各棟断面図

08 3種のイロ



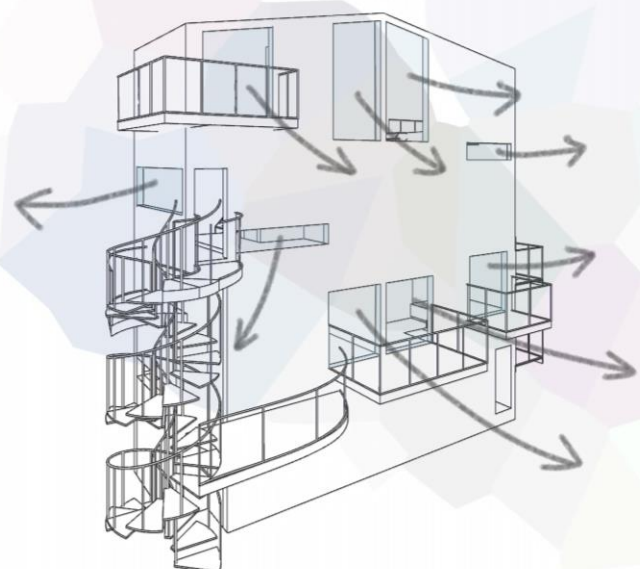
「ひろがるイロ」

細い住戸は外が近いのが特徴。
壁の左右に開口を取り、空間を広げる操作をする。圧迫感が減ることで狭さを感じさせない。
住民のプライバシーを保ちつつ、住戸内の活動が外へとにじむ。



「うごくイロ」

上下を繋ぐ外部階段。上階に住む住民にとっては玄関へと続く道である。
階段の踊り場は住民の表現スペースとなり、交流の場ともなる。

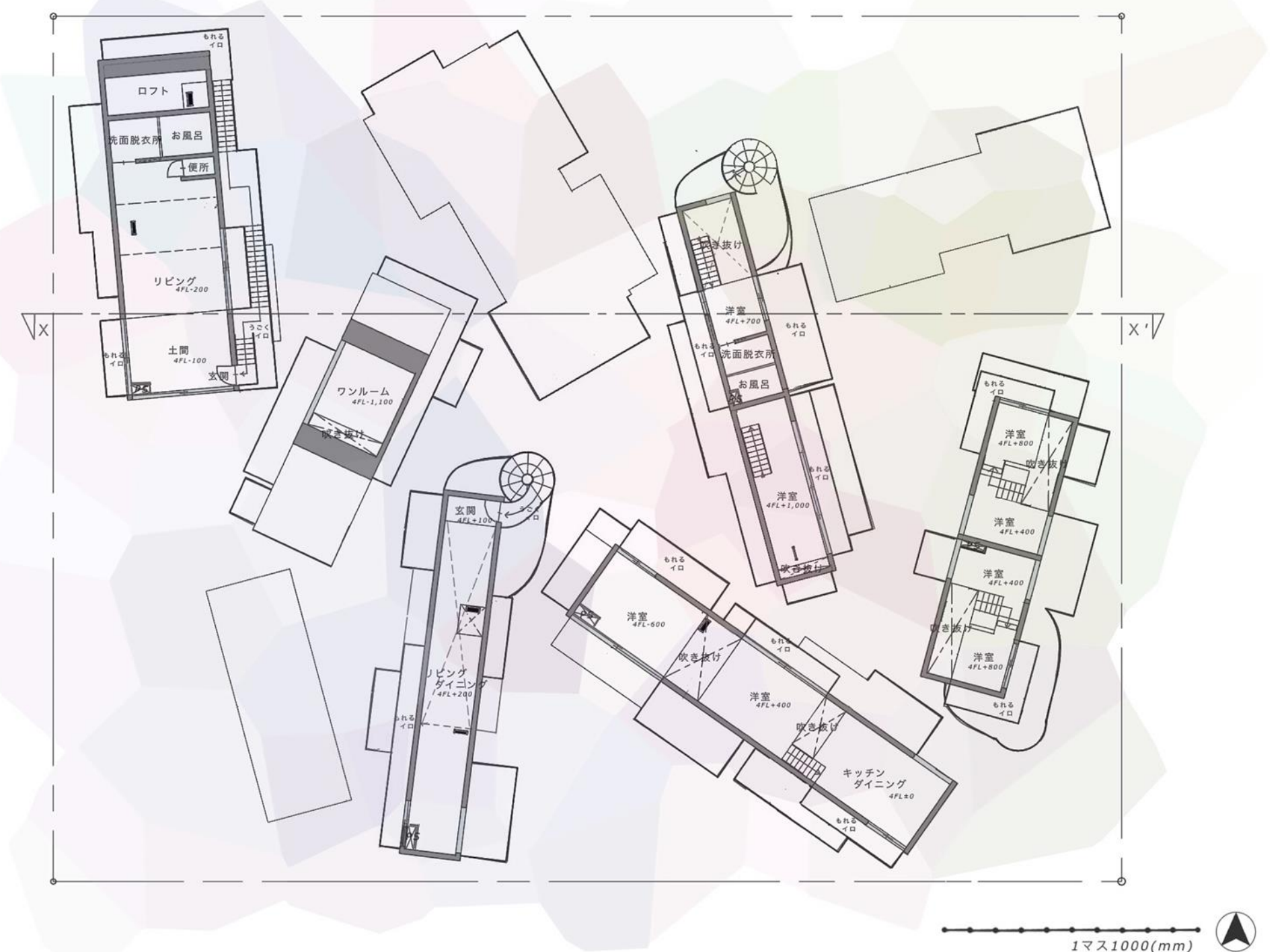


「もれるイロ」

各フロアを外へと拡張。
フロアラインがつながっていることで空間の広がりを感じ、住民の足を自然に外へと向ける。
「ひろがるイロ」と合わせることによって、開放感と外とのつながりを持たせる。



S=1:200 5FL平面図



S=1:200 4FL平面図

09 イロの活用

各住宅ににじんでいる3種のイロでは、日常的にプチテナントを設けることも可能。

住民の表現した作品を展示したり、販売したり、はたまた住民自らの安くつろぎスペースとしての活用や、自然を感じる空間、ちょっと広めの通り道、雨宿りなど、、、

住民の個性から生まれるイロはこの地に賑わいや安らぎをもたらす。



10 極狭住宅

横幅2m、3m、4mの極狭住宅。

狭いことで外が近くなり、必然的に活動が外へと向かう。
階段はささら桁階段を使用し、奥の空間とを繋ぎ圧迫感を減らす。

3種のイロは住宅の延長として、表現の場として活用。

自室の近くに他の住民の表現が散らばっているため、にじんだイロが混ざり合う。＝インスピレーションを受ける、与える。

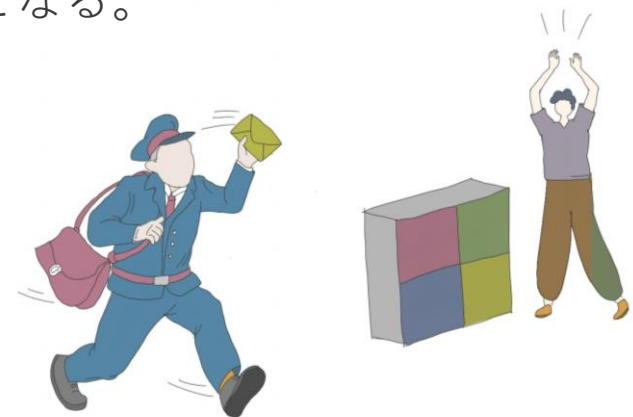


E棟平面図イメージ



11 住民の日常経路

住民に対しても特定の出入り口を求めていない。
駐車場、駐輪場の配置を敷地内でばらけさせ、一か所に必ず集まらない構成。
また、郵便ポストを各棟ごとに設けることによって、さらに流動性を高める。
より自由な空間へとなる。



12 テナント

テナントはA、B、Cの3つ設置。
多くの表現者が集まっている集合住宅のため、
週替わりで主催者をローテーションさせた展覧会、販売会を計画。
共有キッチンでは料理人の料理のふるまいも。



13 人と芸術

この集合住宅は、隣に子ども園があり周囲には多く学校があり多くの住民が住む。
この立地にある芸術館は人々に様々な教育をもたらす。

特に子どもと芸術。
子どもに芸術を掛け合わせることで、
子どもたちは感性を豊かにし、コミュニケーション能力や創造性を高める。
子どものうちから様々な芸術に触れることは、あらゆる人々が芸術を享受できる
環境作りとなるであろう。そして、その芸術を享受する場を身近に設けることは、
日々の生活をちょっと豊かにし、表現者にとっても活動の場が増えることにもつながる。



S=1:200 1FL平面図 兼 配置図



S=1:100 x-x'断面図



S=1:100 北側立面図